



2006

KONICA MINOLTA CSR REPORT

コニカミノルタ CSR レポート 2006



KONICA MINOLTA

The essentials of imaging

イメージングの領域で、必要不可欠な存在であるために。

目 次

コーポレートメッセージ	1
トップメッセージ	3
コニカミノルタグループのCSR	5
特集「中国新生産拠点での1号機誕生まで」	7
1 商品の有用性・安全性	11
2 公正・透明な企業活動	15
3 社会とのコミュニケーションと情報の開示	17
4 環境の保全	21
5 社会への貢献	25
6 社員の尊重	29
7 責任ある対処	33
コニカミノルタへの声	35
個人株主様からのコニカミノルタへの声	37
コニカミノルタグループ	38

お読みいただくにあたって

本レポートは、コニカミノルタグループのCSR (Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任) の取り組みと実績をまとめたものです。

報告対象年度

2005年度 (2005年4月1日～2006年3月31日)
ただし、一部は同期間前後の内容も含んでいます。

報告対象範囲

コニカミノルタグループ全体
(コニカミノルタホールディングス株式会社・事業会社・共通機能会社および関係会社)

詳細情報

本レポートに掲載しきれなかった情報については、下記アドレスのホームページで公開しています。

CSR情報 <http://konicaminolta.jp/pr/csr>

IR情報 <http://konicaminolta.jp/about/investors>

環境情報 <http://konicaminolta.jp/pr/eco>



選択 と 集中

市場環境の変化に素早く対応した「選択と集中」を実践し、より強い企業グループを目指しています。中核事業の情報機器分野、戦略事業の光学デバイス分野などへ集中し、企業価値のさらなる拡大を図っています。

モノ から コト へ

製品（モノ）の機能を向上するだけでなく、お客様にとって魅力的な価値（コト）を持った商品やサービスの提供が、社会からより強く求められる時代だと考えています。経営理念である「新しい価値の創造」を追求し、お客様に新鮮な驚き（コト）を、提供し続けます。

「社会にとって必要不可欠な企業グループを目指して」



企業メッセージの意味するもの

コニカミノルタグループは、その存在意義をあらゆる企業メッセージとして「The essentials of imaging」を掲げています。これは、「イメージングの分野で、必要不可欠な企業グループを目指す」という意味が込められていますが、私は、「社会にとっても必要不可欠な企業グループ」になる、という思いも込めています。これは、CSR活動の理念と共通する概念であり、今、この実現に向けて努力を重ねているところです。

CSR^{*1}は経営そのもの

当社グループは、2003年8月の経営統合以来、世界中のステークホルダー^{*2}の方々からの信頼をいただくことを念頭においた経営理念をかかげ、さらに全世界の当社グループ社員が等しく共有する行動憲章を策定および実行することで、公正で透明な経営をめざしています。

近年では、「社会的有用性」が、企業経営を考える上で最も重要な要素の1つになってきています。それは、この「社会的有用性」や、ステークホルダーの方々から寄せられる支持や信頼の蓄積が、経営目標である「企業価値の向上」につながっているからです。

将来にわたってステークホルダーの方々への期待に応えていくためには、企業としての成長が不可欠です。その際に重要なのは、経済、社会、環境など、幅広い分野で企業としての責任を果たしていくことであり、そのことが将来にわたる成長を可能にし、結果として企業価値が高まることになると考えています。

このように、CSRの理念は、私が目指している経営そのものといっても過言ではありません。

CSRをグループ経営の基本方針として位置づけるこのような考え方を経営において実践し、また、グループをあげて達成に邁進する環境をつくるため、



2006年度を起点とするグループ中期計画に「グローバルに通用するCSR」の考え方を、経営の基本方針として盛り込んでいます。

今後の当社グループの成長戦略を描く上で、CSRの取り組みがその成長を確かなものにするために不可欠な経営方針の1つであることを、すべてのステークホルダーの方々と共有し、実践していく強い決意の表れとご理解いただきたいと思います。

CSRレポート2006について

当社は、2005年度、創業以来の事業であったフォト事業を終了させるという、大変苦しい決断を行いました。長きにわたって、当社フォト製品を愛用してくださった方々に心よりお礼を申し上げますとともに、今後の成長に向けて全社一丸となって注力する所存です。

さて、フォト関連商品を通じたステークホルダーの方々と当社の接点が少なくなるなか、当社の活動をご理解いただくためのコミュニケーションツールとして、このCSRレポートは今まで以上に重要な存在になると考えています。当社グループの事業活動を通じてステークホルダーの方々および社会に広く貢献し、共に発展できる企業となるためには、より一層の密度の濃いコミュニケーションに



よって、さらなる信頼関係を構築することが重要と考えています。

この報告書が、その実現に向けて大きな役割を果たしてくれることを心から願っています。

2006年6月

コニカミノルタホールディングス株式会社
代表執行役社長

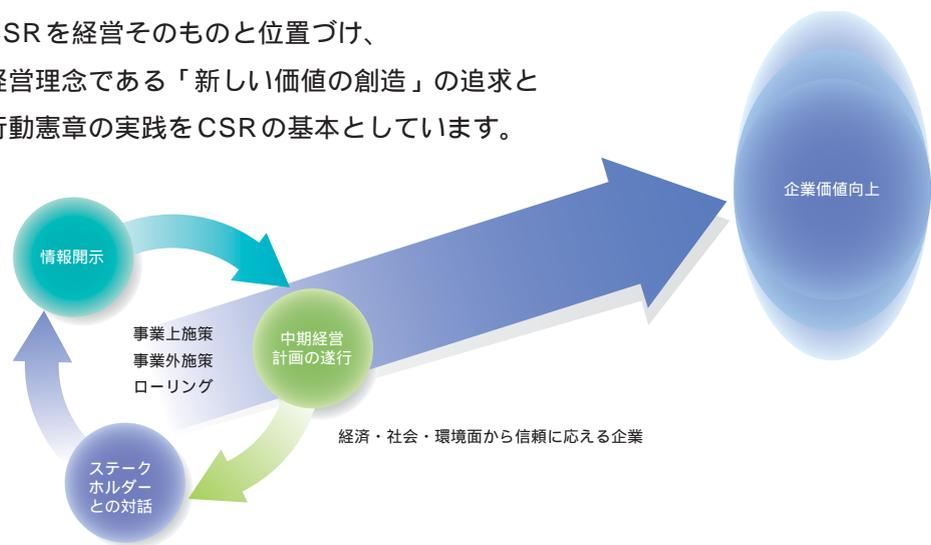
太田義勝

*1 CSR : Corporate Social Responsibility (=企業の社会的責任)の略。コーポレートガバナンス(企業統治) 情報開示などが、一般に企業が社会に対して果たすべき「責任」ととらえられているが、解釈は様々。コニカミノルタでは「社会から信頼を得ること」ととらえている。

*2 ステークホルダー：株主・顧客・取引先・従業員・地域住民など、企業活動を行う上でかかわるすべての利害関係者。

コニカミノルタグループのCSR

コニカミノルタグループでは、
CSRを経営そのものと位置づけ、
経営理念である「新しい価値の創造」の追求と
行動憲章の実践をCSRの基本としています。



グローバルに通用するCSRの展開

コニカミノルタグループは、経営統合してこの2006年度で4年目を迎え、今般、確かな成長と飛躍を基軸においた新たな中期経営計画を公表させていただき、そのなかで「グローバルに通用するCSR」をグループ経営の基本方針の1つに位置づけました。この基本方針では、「信頼される企業として、経済面に加え、社会面、環境面でのグローバル展開の強化による、企業価値の持続的向上」が掲げられ、その達成のために、幅広いステークホルダーエンゲージメント*の強化、品質・環境経営の強化、グループガバナンスの実践と継続的改善、をコミットしています。

2005年度は、グローバル企業として「コニカミノルタCSRレポート」を創刊し、「企業の社会的責任を果たすことは、コニカミノルタグループが目指す企業価値向上につながると確信しています」というメッセージのもと、ダイジェスト版も含め、日本語、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の5カ国版を発行しました。同レポートではCSRは経営そのものであり、経営理念の追求と行動憲章の実践がCSRの基本であるとの説明をさせていた

だき、社会、環境を含めた様々なCSR活動について報告しました。しかしながら、あわせてまだまだ改善すべき点が多くあることも報告しました。やるべき課題は多々ありますが、やはり全世界に事業を展開させていただいているグローバル市民の一員として、「グローバルに通用するCSR」の展開と定着が、幅広いステークホルダーの皆様から信頼を獲得し、当社の発展につながるものとの思いを強くしています。

この思いに立ち、グループ横断的なCSR取り組み方針のもと、社会・環境・経済の側面から日本・米国・欧州・アジア等、地域別・国別にそれぞれの文化や慣習等を尊重するとともに、CSR活動を強化し、世界で信頼されるコニカミノルタを目指して、従業員含めグループ全体で活動していきます。

*ステークホルダーエンゲージメント：ステークホルダー(利害関係者)からの意見を取り入れて、経営の判断や、企業活動に活かすこと。

CSR担当役員
常務執行役
石河 宏



経営理念

新しい価値の創造

経営ビジョン

イメージングの領域で感動創造を与え続ける
革新的な企業

高度な技術と信頼で市場をリードする
グローバル企業

企業メッセージ

The essentials of imaging

イメージングの世界でお客様に必要な不可欠なものを提供し、
必要不可欠な企業として認められる存在になる、
というメッセージです。



KONICA MINOLTA

地球をモチーフにしたシンボルマーク「グローブマーク」は、
コニカミノルタの無限の広がりや世界中のお客様に対する
新しい価値の提供を表現したものです。

コニカミノルタグループ 行動憲章より

企業は、公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体
であると同時に、広く社会にとって有用な存在であることが求
められています。コニカミノルタグループは、全社員が本憲章
の精神を深く認識し、社会的良識をもって行動します。

経営トップは本憲章の精神の実現が自らの役割と責任であるこ
とを認識し、率先垂範の上、全社員に周知徹底します。また、
グループ内外の声を常時把握し、実効あるグループ内体制の整
備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

1. 商品の有用性・安全性
2. 公正・透明な企業活動
3. 社会とのコミュニケーションと情報の開示
4. 環境の保全
5. 社会への貢献
6. 社員の尊重
7. 責任ある対処

コーポレートガバナンス（企業統治）

コニカミノルタグループは、グループ経営戦略の策
定・推進機能およびグループ経営の監査機能を持つ
コニカミノルタホールディングス（持株会社）と、
事業に直結してお客様に商品やサービスを提供する
事業会社によって構成された企業グループです
（P.38 Group Formation参照）。各事業会社は、
使命達成のために必要な戦略策定や実施の権限を
持っており、スピーディな経営を行っています。
コニカミノルタホールディングスは、より公正かつ
透明性の高い経営体制とするため、2003年に日本
では先進的な「委員会設置会社」を導入しました。
委員会設置会社では、取締役会のなかに固有の権限
を持つ3つの委員会（監査・報酬・指名）があり、
経営の監督などを行っています。いずれの委員会も
それぞれ過半数が社外取締役で構成されており、委
員長は社外取締役が務め、また、代表執行役はどの
委員会メンバーでもありません。

コンプライアンス*

コニカミノルタグループが考えるコンプライアンス
は、単に国内外の法令を遵守するというだけではあ
りません。企業倫理や社内規則類までを広く含んで
います。こうした考えのもと、「コニカミノルタグ
ループ コンプライアンス行動指針」は、グループガ
バナンスを貫くものとして、企業活動におけるすべ
ての行動に対して最優先に位置づけられています。
全世界のグループ各社全従業員へコンプライアンス
意識を徹底するために、世界各国で教育・啓蒙を継
続しています。前述の「行動憲章」は、9カ国語
（日、英、中、独、仏、伊、露、スペイン、ポルト
ガル）に翻訳し、全従業員に配布しています。また、
「コンプライアンス行動指針」を説明した、「コンプ
ライアンスマニュアル日本版」と「コンプライア
ンスマニュアル中国版」を、それぞれの現地法令に対
応して作成し、配布しています。また欧米では、従
業員が守るべき具体的規範である「Code of
Conduct」のなかに、「コンプライアンス行動指針」
を組み込み、配布しています。



それぞれの委員会の役割

指名委員会

株主総会で選任される次期取締役候補者
を指名する。

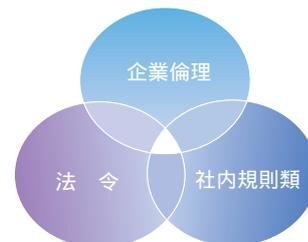
報酬委員会

取締役・執行役の報酬を決定する。

監査委員会

従来の監査役に代わって経営の監査を行う。

*コンプライアンス：法令等遵守。コニカ
ミノルタの場合、企業倫理や社内規則類
の遵守まで広い範囲を含む。



コニカミノルタグループの
コンプライアンスの範囲

無錫から世界へ、コニカミノルタの明日を担う生産拠点が誕生

情報機器事業の成長を牽引するカラー複合機「bizhub C450」。その主力生産会社であるコニカミノルタビジネステクノロジーズ（無錫）有限公司（BMW）が2005年9月、稼働を開始しました。世界でも重要な生産拠点となる中国で、BMWは一体どのようにして立ち上がったのか。その軌跡をたどります。



カラー複合機「bizhub C450」



カラー複合機（多機能複写機）の 主力生産拠点として設立

上海から西へ約130km、長江三角洲の中心部に位置する江蘇省・無錫（むしゃく）市。3,000年もの長い歴史を持つこの都市は、中国で4番目に大きい湖「太湖」に臨む中国有数の観光地です。近年では、日系企業をはじめとする外資を積極的に誘致しており、まさに急速な発展を遂げる中国を象徴する都市でもあります。

コニカミノルタは、今後の複合機事業の生産能力を増強するために、2004年12月、この由緒ある地にグローバルな生産拠点としてコニカミノルタビジネステクノロジーズ（無錫）有限公司（BMW X）を設立。それからわずか1年で、BMW Xはカラー複合機「bizhub C450」を生産・出荷するまでに至りました。しかし、必ずしも順風満帆にここまでたどり着いたわけではありません。そこには、様々な関係者の語り尽くせぬ苦労がありました。

スピードを重視しながら、プロジェクトは進行

BMW Xの立ち上げには、事業戦略上、時間的な制約がありました。そのため、立地の事前調査から工場の建設・稼働、そして生産まで、すべてのステージで「スピード」が要求されました。

「立地の決め手となったのは、無錫市政府の熱心な誘致活動です。私たちのニーズにあったきめ細かいサービスを、無錫市政府から提供していただけたことも大きな要因です」と、黒岩総経理は当時を振り返ります。

2005年2月の寒風吹きすさぶ起工式から、わずか4カ月で建物の骨組みが完成。そして9月には生産準備に入り、10月には記念すべき第1号機が完成しました。

「驚異的な早さでここまで達成できたのは、現地政府の強力な支援や、タイトなスケジュールにもかかわらず工事を進めてくれた、地元建設業者の惜しみない協力があったからです。もちろん、必死に業務に取り組んだ社員の姿は、決して忘れられませんね」（伊藤副総経理）

こうしてBMW Xは12月、盛大なオープニングセレモニーを開催し、無錫の地に新たな一歩を築きました。



上棟式



建設中の現場



無錫市との調印式



技術研修



組立行程

企業市民として社会的責任を果たす

スピードと同様に、品質管理とCSR（企業の社会的責任）も重視しています。建設前には入念な地質調査や環境アセスメントを実施。工場稼働後は、無錫市の環境保全規則に従い、今後のゼロエミッション達成を目指して、ゴミの分別処理などを行っています。

BMWXの特長の1つは、その最新設備にあります。例えば、エネルギー源は基本的に電気を使用し、NOx（窒素酸化物）やSOx（硫黄酸化物）の排出を抑制しています。また、オゾン層の破壊と地球温暖化を防ぐため、フロンを使用しない空調設備を導入。射出成形時に冷却水を使用する代わりに、省エネタイプの冷却装置も設置しています。このほかにも、世界中の各拠点と迅速にコミュニケーションを図れるよう最新のIT環境を整備しており、まさに最新のノウハウを結集した生産拠点といえます。

BMWXでは高品質で安全な製品をお客様に提供するとともに、環境保全にも積極的に取り組むため、稼働後間もない2005年12月、品質マネジメントシステム「ISO9001」と、環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を同時に取得しました。

また、地域社会との円滑なコミュニケーションを図るため、中国政府関係者などの工場視察を積極的に受け入れ、情報を提供しています。今後は冊子などの配布に加えて、ホームページでの情報公開を予定しています。

人材育成が今後の鍵

企業にとって「人」は重要な財産です。大屋人事総務部部长は、社員の採用について次のように語ります。「新会社なので、即戦力となる人材を中心に、インターネットなどを使って一般公募を行いました。もちろん、選考時には年齢や性別などによる差別は一切なく、能力や経験で判断しました」BMWXでは地域社会に貢献するため、積極的に地元出身者の採用に努めた結果、無錫市とその周辺地域で約320人の雇用を創出。これは正社員の約90%にあたります。採用した社員に対しては、入社時にコンプライアンス教育をはじめとする新入社員教育を実施しています。また、複合機については全員未経験者なので、研修だけでなく専門の技術者による現場での指導を行うなど、品質管理に関する技能伝承にも力を入れています。

「最も重要なのは『人づくり』ですね。今後は業務品質をさらに高め、現地の部品メーカーに



BMWXサッカー部の試合を応援

技術指導していくためにも、できるだけ早く管理職のローカル化も進めていかなければなりません」と、伊藤副総経理は人材育成の重要性を強調します。

また、BMWXでは無錫市政府に早期組合設立支援を依頼し、2006年3月に労働組合が設立されました。BMWXは組合機関との協調を通じて、福利厚生面の充実だけでなく、社員の意見に耳を傾け、お互いを理解し、社員を尊重した職場づくりを心がけています。

BMWXの立ち上げに尽力していただいた無錫市政府、時には考え方の違いから白熱した議論を戦わせた地元の建設業者の方々。そして慣れない複合機と毎日格闘した社員など、様々な関係者の熱い想いと希望を乗せて、BMWXの航海は今後も続いていきます。



1号機完成式



従業員ミーティング



コニカミノルタビジネステクノロジーズ（無錫）有限公司の概要

設立：2004年12月

従業員数：918名（2006年3月現在）

敷地面積：132,000m²



お客様との信頼の架け橋を築くために

商品の有用性・安全性

私たちは、社会的に有用な商品・サービスを安全性に十分配慮して開発、提供し、消費者・ユーザーの信頼を獲得します。

コミットメント COMMITMENT

コニカミノルタは、「商品の品質と安全性において、お客様の信頼に応えることが、メーカーとして社会における信頼確保につながる」と認識しています。そのため、お客様最優先と品質第一を徹底し、価値ある商品とサービスを提供することで、お客様の満足と信頼を最大にします。

アプローチ APPROACH

いつでもどこでも高い品質の商品・サービスを提供し、安全・環境の面においても同じ安心と信頼を保証します。

商品開発では、品質工学の導入により品質の信頼性確保と高生産性を実現するとともに、性能以外のCSRの視点からも様々なつくり込みを行います。

素材選択から廃棄までもれなく目を配り、社会的課題や環境課題の解決につながるような商品・サービスの提供を行います。



4 2006 ^{ターゲット} TARGET

1. 使いやすい商品を提供するために、ハード面ではユニバーサルデザイン^{*1}、ソフト面ではわかりやすいユーザーインターフェース^{*2}を、設計やデザインに積極的に取り入れます。
2. ネットワーク時代の要請に応え、情報セキュリティ技術の開発を強化し、情報セキュリティ機能のレベルアップを加速します。
3. 省エネルギー設計をはじめとする環境負荷低減を推進するとともに、RoHS 指令^{*3}などの環境規制を完全に遵守します。

^{*1}ユニバーサルデザイン：障害の有無、年齢、性別、国籍、人種等にかかわらず多様な人々が利用可能であるように、製品、建物、空間をデザインすること。

^{*2}ユーザーインターフェース：使用者がコンピュータを操作する上での環境をいう語。コンピュータの使いやすさを決定する大きな要因となる。

^{*3}RoHS 指令：EU（欧州連合）が2006年7月1日に施行する有害物質規制。電気電子機器への6種類の特定有害物質の含有を禁止するもの。



「商品を通して社会に貢献していきたい」コニカミノルタは、それぞれの製品の役割を見つめ、高い開発力と、確かな技術に裏打ちされた、多彩な商品とサービスで、社会をサポートします。

オフィスの知的生産性を向上させる

複合機「bizhub」

従来のコピー機能に加えて、プリンタ、スキャナ、FAX等多様な機能を有する、複合機。コニカミノルタの複合機「bizhub(ビズハブ)」は、情報の共有化による活用促進と、作業効率化による知的労働時間の創出によって、オフィスの知的生産性を向上させます。✚

昨今のネットワーク時代においては、不正アクセス・ウイルス感染・情報漏洩などによる多大なリスクが問題となっています。これに対し、ユーザー認証、データ自動消去など様々なセキュリティ機能を搭載するとともに、情報セキュリティ認証「ISO15408*」取得機を拡大しています。同時に、地球規模での課題である環境に配慮した設計についても、消費エネルギー削減、有害化学物質排除などの取り組みを加速しています。

今オフィスでは、高齢者や障害者の雇用も拡大されることが望ましく、このような方々に利用されることも考え、どなたにでも心地よく使えるユニバーサルデザインに積極的に取り組んでいます。例えば、実際に障害のある方や高齢の方にご協力いただき、操作パネルに拡大表示機能とハイコン

トラストな色彩を採用して見やすい画面にするなど、より使いやすくするための評価や改善を重ねています。

さらなる小型化・高機能を目指す

マイクロカメラユニット

コニカミノルタのマイクロカメラユニット/マイクロカメラ用レンズユニットは、カメラ付き携帯電話、車載カメラ、webカメラなど、用途がますます広がっています。これら光学系製品では、小型化、高機能化の追求が、まさに有用性の追求であると考えています。

例えば、カメラ付き携帯電話では、より高画質を提供するために、画素数アップとオートフォーカス化という高機能化が進んでいます。もちろん、携帯性の良さのためには、小型・軽量化も重要な要素です。最新のマイクロカメラユニットの厚みは、従来の半分になっています。✚

今後、カメラ付き携帯電話はさらなる高画素化・高機能化とともに小型化が進められるでしょう。こうした流れのなか、さらなるレンズの小型化・ユニットの小型化の要求に応えていくことが、今まで以上に重要になると考えています。

2005 パフォーマンス
Performance

4,268件

2005年(2005年1月1日~2005年12月31日)の日本特許公開数です。前年度比約3%減で12位でした。同じく米国特許登録件数は、316件(56位)でした。



BERTL*の2005年Color Productivity「END USER PLATINUM AWARD」を受賞しました。世界56カ国の購買決定者数千人によって、32メーカーのなかから決定されました。



**女性の明るい未来のために
デジタルマンモグラフィー「PCMシステム」**

食生活やライフスタイルの変化から乳ガン罹患率は年々増加しており、その割合は日本では30人に1人とされています。乳ガンは早期に発見し治療すれば、治る病気です。ただし、乳ガン早期発見に寄与する乳房X線撮影では、微細な判断ができる高画質が求められます。

コニカミノルタはこの乳ガンの早期発見に貢献するために、「位相コントラスト技術」の応用によって高画質を実現した、デジタル乳房X線撮影システムである「PCMシステム」を完成させました。2005年には日本での発売を開始し、お客様から高い評価をいただいています。

このシステムは、欧州、米国、中国、オーストラリアの各展示会でも大きく注目を集め、順次発売のための準備を進めています。

**三次元イメージを生み出す
非接触3Dデジタイザ「VIVID」シリーズ**

非接触3D（三次元）デジタイザは、接触や破壊することなく立体物をレーザースキャンし、その3D画像を作成する装置で、CG映像制作をはじめ、

設計や検査など幅広く活用されています。そのほか、文化財の修復や保全にもこの装置が応用されています。

スペインのアルタミラ洞窟は現在、損傷拡大防止のために閉鎖されていますが、その実物大レプリカ洞窟が一般公開されています。このレプリカ作成の際、コニカミノルタの3Dデジタイザは、2,600m²に及ぶ洞窟に描かれた壁の三次元イメージを得るために使用されました。

また、文化財・美術品の修復部品や、輸送用ウレタン梱包材を作成するための採寸などにも使われています。

*ISO15408：製品やシステムの開発・製造・運用にかかわった資材を検査することによって、問題がないことを証明する、国際セキュリティ評価基準。

 オフィスで活躍する複合機「bizhub」

 マッチ棒よりも小さいマイクロカメラユニット

 日本で発売された「PCMシステム」

 アルタミラ洞窟で使用された3Dデジタイザ



複合機の「ISO15408」認証取得の累積機種数です。2004年10月以降に発売した複合機は、全機種で取得しています。

125 件

「2005年コニカミノルタ品質工学シンポジウム」の口頭およびポスターによる発表件数です。このシンポジウムは毎年開催され、発表と活発な議論が行われます。

コニカミノルタの高度な技術力は、その製品性能の追求のみならず、社会的課題や環境課題の解決につながる技術の開発に対しても、いかに発揮されています。

*BERTL（パートル）：デジタルイメージング機器の性能をエンドユーザーの視点で評価する、権威ある国際的な独立評価機関。



社員一丸となって、グローバルに展開する 公正な企業活動

公正・透明な企業活動

私たちは、法令・社会的規範を遵守し、国際ルール、定款に則して行動し、公正・透明な企業活動を行います。

コミットメント COMMITMENT

コニカミノルタの企業活動は、常に公正であるべきです。そのために、従業員をはじめ、コニカミノルタで働く一人ひとりが法令の遵守はもとより、公正な取引、各種情報の保護、腐敗・汚職防止等のために、企業倫理に基づき責任を持って行動します。同時に、企業活動の透明性を高め、不正が起こらない、また、万が一起こったとしても発見しやすい体制と運用を確保します。

アプローチ APPROACH

グループ全従業員を対象としたコンプライアンス^{*1}教育において、その国や地域の法令や商習慣を考慮した個別の教育プログラムを作成し、明瞭で、きめ細かな指導を行います。

企業活動において不都合や事故が発生した場合、影響のあるステークホルダー^{*2}に対して、正確な情報を迅速に連絡できるよう、体制を確保します。情報セキュリティでは、特にIT情報セキュリティを重点とし、ソフトとハードの両面で継続的な向上に努めます。

KONICA MINOLTA 取引先説明会

株式会社キオクシア(株) 代表取締役社長 藤田 隆
株式会社キオクシア(株) 代表取締役 藤田 隆



中国のお取引先様とのパートナーシップを強化

有用で安全な製品をお客様にお届けするためには、部品・ユニットなどをご提供いただくお取引先様との協力体制が重要となります。コニカミノルタビジネステクノロジーズでは中国への生産シフトに伴い、中国お取引先様とのオープンでフェアなパートナーシップ強化に取り組むと同時に、ゴールの共有化に努めてきました。

2005年度はRoHS環境規制に対応するため、部品・材料の対応確認はグリーン調達システムで行うとともに、継続して対応部品・材料を納入していただけるよう環境マネジメントシステム監査を実施しました。2006年度は、このような対応状況を相互に把握できるようシステム化を図る予定です。

個人情報保護における事故とその対応

日本では個人情報保護法が2005年4月全面施行され、コニカミノルタでも、2004年度から個人情報を保護するための方針策定、体制構築、マニュアル作成を行い、あわせて説明会などにより全従業員への周知徹底を行ってきました。しか

しながら、お客様情報を記録したパソコンの紛失(6月)、お客様メールアドレスの誤送信(7月)、お客様情報の入った営業鞆の盗難(11月)の3件の事故がありました。いずれの事故においても、監督官庁への届出、お客様への事実関係のご連絡とお詫び、そしてホームページ上での開示を迅速に行いました。事故の原因は人為的ミスによるものであり、通達による従業員への注意喚起とルールの徹底、管理状態の再調査と改善、教育および監査などを行い、再発防止に努めています。

国際的な平和と安全維持のための輸出管理

大量破壊兵器の拡散やテロ等が懸念される世界情勢のなか、調達が容易な汎用品でも、製品・部品などの輸出や、技術の提供にあたっては、大量破壊兵器の開発・製造等に用いられる恐れがないか、需要者・用途の確認が必要です。コニカミノルタでは、グループでの管理体制を構築し、「安全保障輸出管理規程」を定め、該非判定、取引審査、教育、監査等を行っています。国際的な平和と安全を阻害する取引に決して関与しないよう、今後も継続的に取り組みます。

私たちは、「利益のため」「会社のため」「上司の指示」「以前からやっている」「他社がやっている」とか、「この業界、この国では、当たり前」であっても、この「行動指針」に反する行為をしません。

[コニカミノルタコンプライアンス行動指針]より

中国お取引先様への説明会

「ITセキュリティマニュアル」の挿絵より

2006 TARGET

- 1.IT 情報セキュリティでは、ISMS 認証^{*3}を視野に入れ、「IT セキュリティ基本規程」を基にPDCA サイクル^{*4}を推進し、セキュリティレベルの維持・向上に努めます。
- 2.調達では、RoHS指令への対応を含む環境規制を完全遵守するとともに、グリーンパートナー制度を導入します。

^{*1}コンプライアンス：法令等遵守。コニカミノルタの場合、企業倫理や社内規則類の遵守まで広い範囲を含む。

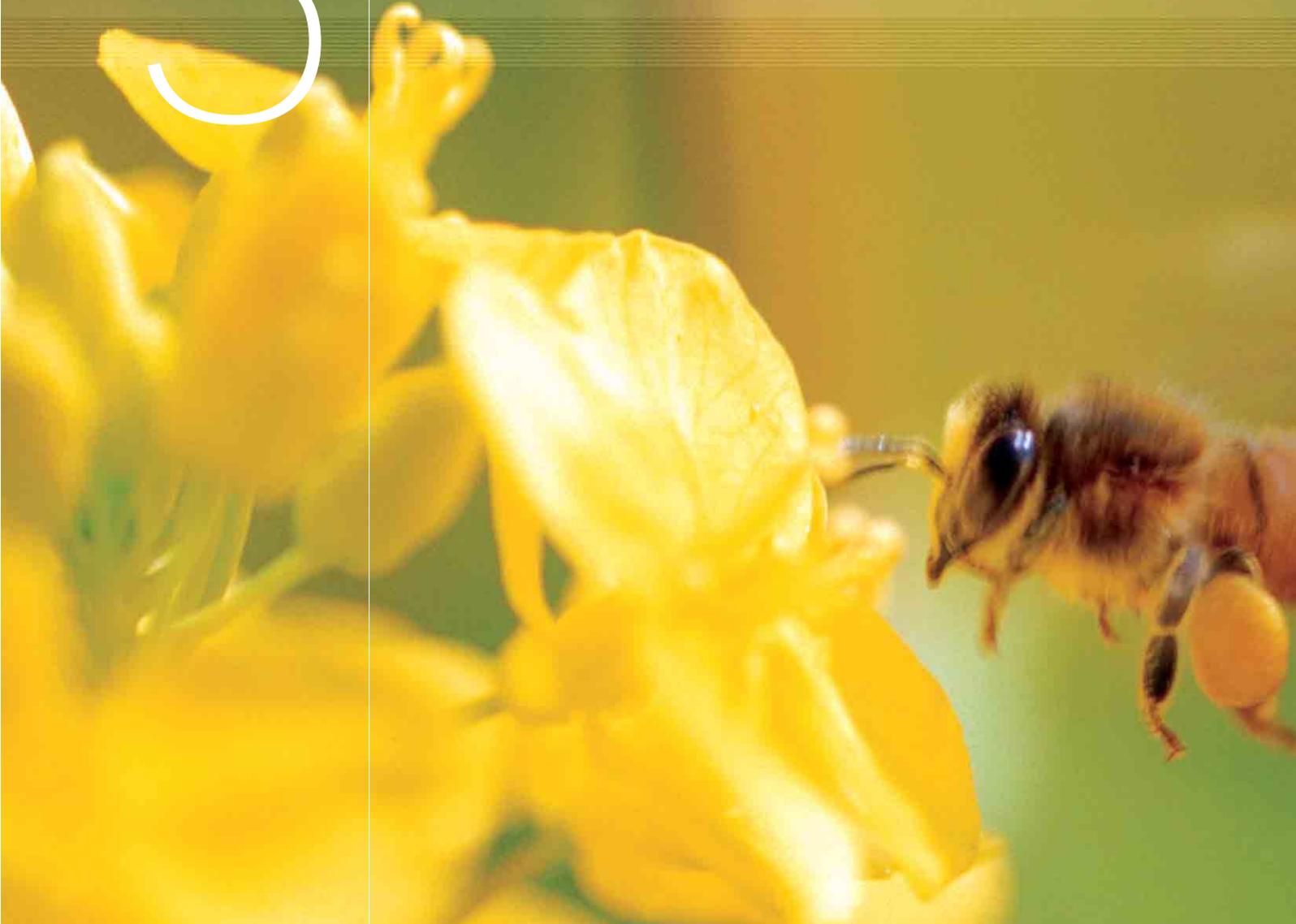
^{*2}ステークホルダー：株主・顧客・取引先・従業員・地域住民など、企業活動を行う上でかかわるすべての利害関係者。

^{*3}ISMS認証：情報セキュリティマネジメントシステムをその組織が保持しているかどうかを第三者が認定する制度。

^{*4}PDCAサイクル：Plan(計画) Do(実行) Check(検証) Action(改善)の頭文字を取った「計画・実行・検証・改善」を繰り返す継続的な活動。

3

社会への情報発信は社員一人ひとりから



コミットメント COMMITMENT

様々な立場の人が、互いに叡智を結集し、協力していくためには、双方向のコミュニケーションが欠かせません。そのためにコニカミノルタは、お客様、株主、投資家、行政、地域住民、他企業等の方々と、双方向のコミュニケーションを実現します。また、自社の活動について多くの方々から正しい理解と信頼を得るために、財務情報だけでなく、社会活動や環境活動などの非財務情報も含めて、適時・公正に公開します。

アプローチ APPROACH

世界中で量的、質的に同様の情報が得られるよう、インターネットを活用し、英文での公開時期を早めています。それに加え、英語以外の複数言語での情報発信も拡大します。

社員一人ひとりによる社会とのコミュニケーションが重要と考え、グループ全社員に教育啓蒙を行うとともに、グループ外に提供できる各種情報を全社員で等しく共有します。

コニカミノルタのCSR活動を理解し、支えてくださる方々を一人でも多く増やすために、財務情報をより充実させ、非財務情報も積極的に提供・アピールしていきます。

社会とのコミュニケーションと情報の開示

私たちは、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を適時かつ公正に開示します。

2006 TターゲットARGET

- 1.各国のステークホルダーの方々に、コニカミノルタグループの活動をさらにご理解いただくため、ホームページの一層の見やすさ、使いやすさを、見る方々の立場に立って追求します。
- 2.情報開示の適切性、公正性が確保されているかどうか、各種報告書や適時開示する情報ごとに、情報開示統制や手続きの監査を行います。

社会への情報発信は社員一人ひとりから



積極的なコミュニケーションを通じて、信頼され、歓迎される企業グループを創造します。

正しい理解と信頼を得るために、企業の活動情報は、適時かつ公正に開示します。

企業情報開示委員会を発足

コミュニケーション促進のために「コミュニケーション方針」を策定するとともに、ガバナンス面での強化として、2005年11月に企業情報開示委員会を発足させました。この委員会の任務は、コニカミノルタグループが開示する重要な会社情報が、適時・適切、かつ公正に行われるようルールを作成し、適正な運用を保障することです。2005年度は、その手始めとして、各種報告書や適時開示する情報ごとに、情報収集・分析・判断・公表における詳細プロセスと役割を明確化し、「情報開示統制・手続き」としてまとめました。

世界同時性を追求するIR活動

コニカミノルタグループは、企業価値を最大限に高めることにより、株主・投資家の皆様の期待に応えていくことを目指しています。そのためには、グループの企業活動をよりご理解いただくために、「コニカミノルタグループ 行動憲章」に掲げた「企業情報の適時かつ公正な開示」の理念に則し、“No news is bad news”の意識でより多くの情報を、さらに多くの機会を設けて積極的にIR*1活動を行っています。

2005年度は、株主・投資家の皆様や格付け機関を対象として、四半期ごとに決算説明会を開催し、タイムリーなIR情報の公開を行いました。海外の投資家には、その日の夜に電話会議を行い、説明会の資料も同日に日本語・英語の両方でホームページに掲載するなど、グローバルな見地地域による時間的・質的な情報格差の解消に努めています。

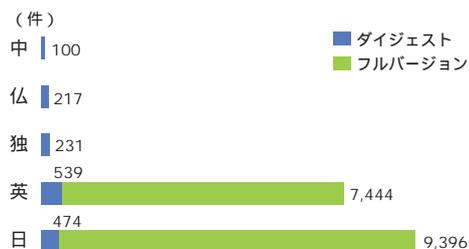
理解を深め合う、工場の地域コミュニケーション

工場は、周辺地域に環境や経済の面で大きな影響をもたらすと同時に、地域からも影響を受けています。お互いに共存共栄を目指すためには、地域コミュニケーションによって、理解を深め合うことが重要です。コニカミノルタの各工場では、工場見学やイベントなどを通じて、直接地域の方々とふれあい、対話する機会を増やしています。米国のトナー生産会社であるKonica Minolta Supplies Manufacturing U.S.A., Inc.は、工場建設時から地域との対話をもとに環境影響などについて真摯に対応を進めてきました。その結果、今でも広大な“Wet Land(湿地帯)”を維持し、グースや鹿の遊び場になっています。また、地域

2005 パフォーマンス
Performance

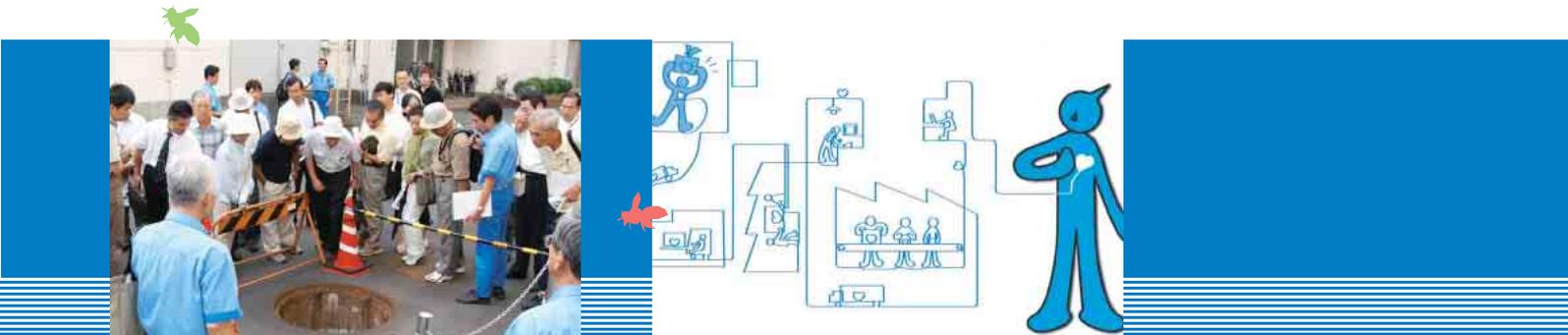
400社以上

IRのために2005年度に行った、投資家の皆様とのミーティングは、各国合わせて400社以上となりました。経営トップも率先して参加しています。



「コニカミノルタCSRレポート2005」ダウンロード数

「コニカミノルタCSRレポート2005」は、ホームページ上に、日英2カ国語と、ダイジェスト版が5カ国語で公開されています。上記は、そのダウンロード数です。



のマラソン大会や美術館等のサポート、商工会議所への会議室提供など、地域との交流を深めています。✂

日本では、誰でも参加自由な「地域環境報告会」を開催し、ディスカッションを行っています。この対話を通じて、工場の新たな課題が確認されることは、地域とコニカミノルタ双方にとって大変有意義なことです。今までに、用水使用量削減や、トラックの通行に際しての安全などについて、対策を講じ、報告してきました。2005年度は、より理解を深めていただくために工場見学を実施し、直接現場をご覧いただきました。また、開催地も2カ所増やし、計4カ所で開催しました。✂

全社員がコミュニケーションの窓口

コニカミノルタでは、「社員の一人ひとりが会社の代表になる」という意識を持って、社外の方々と積極的にコミュニケーションを図るよう啓蒙を行っています。✂ 一方、グループ内の様々な情報を誰もが社外に向かって語れるように、インナーコミュニケーション推進による情報共有化も進めています。

特に、お客様との接点となる営業マンに対しては、

「ブランド。はじめの一歩！」を配布し、自らがコニカミノルタブランドであるという自覚のもとに、信頼と安心を与えられるコミュニケーションが図れるよう指導しています。

インナーコミュニケーション推進のために、106人のグループ内の情報受発信者を置く、コミュニケーションコーディネータ体制を構築しています。その核となるグループ報「KONICA MINOLTA」の活性化と、イントラネット*²である「コニカミノルタオンライン」の充実に努めており、グループ報は、2005年日本経団連推薦社内報選定制度で「総合賞」を受賞しました。

*1IR (Investor Relations) : 企業が株主、投資家向けに財務内容や業績などの企業情報を公開すること。

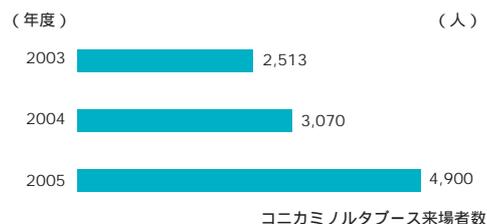
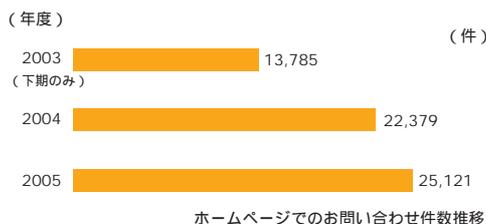
*2イントラネット: 組織内ネットワーク。ネットワーク同士を結ぶために開発されたインターネットの技術を使って、企業や部局の内部のネットワークを構築したもの。

✂ コニカミノルタホームページのIRサイト

✂ 工場を訪れた地元の方々（米国）

✂ 「地域環境報告会」での工場施設見学（日本）

✂ グループ報挿絵「お客様を感じよう。」



コニカミノルタホームページのグローバルサイトおよびジャパンサイトを通して寄せられた、企業活動や製品に対するお問い合わせ件数です。

毎年、東京ビッグサイトで行われる環境展示会「エコプロダクツ」での、コニカミノルタブース来場者数です。展示会は、いろいろな人と直接対話する良い機会です。

企業の説明責任を果たすためにも、製品や事業活動に関する情報開示は重要であると考えています。

そして、外からの声に耳を傾けることは、次の活動へのスタートであるととらえています。

4

この自然が永遠に続くために、 私たちにできること

環境の保全

私たちは、地球環境問題の重要性を認識し、
環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。

COMMITMENT

お客様に有用な商品やサービスをご提供するのみならず、環境負荷をより小さくする、つまり「環境負荷の最小化と同時に経済的価値を最大化する」環境経営を行います。私たちの責任として、グローバル（全世界）で、製品ライフサイクル（素材選択から、製造、使用、廃棄まで）を通じて、環境負荷をより小さくし続けます。

APPROACH

「測定なくしてコントロールなし」を取り組みの基本姿勢とし、信頼性のあるデータの確保に努めるとともに、効果・影響の定量的な測定と分析に基づき、環境課題の着実な解決につなげます。

経済性も兼ね備えた環境施策とは、徹底的な「ロス削減」であると考え、資源・エネルギー・行動・時間など、あらゆる切り口で「ロス」を解明し、効率向上の糸口とします。



2006 TターゲットARGET

- 1.生産工程での地球温暖化防止（CO₂排出削減）
策の展開に際して、施策と効果についてデータ
分析を行い、最適施策を選びます。
- 2.製品では、有害物質規制であるRoHS指令への
対応のみならず、省エネルギー製品の開発、販
売を加速し、お客様を通じてCO₂排出削減とエ
ネルギー資源節約を進めます。
- 3.生産事業所では、廃棄物排出量と有害化学物質大
気放出量について、ゼロエミッション活動および
化学物質総合安全管理計画による削減を進めます。

この自然が永遠に続くために、私たちにできること



関係会社も管理範囲に入れた、グループワイドな環境経営が定常化した今、取り組み目標のキーワードは、「グローバル」「ライフサイクル」に加え、生産量増加を言い訳にしない「総量削減」です。

グローバル環境経営の推進

開発・製造・流通・販売・サービスの製品ライフサイクルの全段階における環境配慮を、迅速かつ効率的に推進するために、日本のグループ全39社で、環境マネジメントシステムのしくみ「ISO14001」を統合しました（対象人員は約20,600人、241事業所）。

また、コニカミノルタグループは、生産・販売の海外比重が高く、持株会社制も採用していることから、グローバル・グループワイドを重視した環境経営を行っています。日本での統合ISOは、グローバル環境経営の日本地域の要であるとともに、コニカミノルタグループ全体を包含する環境経営に不可欠です。日本以外でも、中国、米国、欧州の各地域で、統率のとれた環境経営を進めています。

CO₂排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素（CO₂）の排出削減は、世界的な環境命題です。これに対しコニカミノルタでは、「全事業活動と製品使用时由来のCO₂排出総量を2010年に2000年度比で20%削減する」という目標を立てています。

そのために情報機器製品では、消費電力低減に取

り取り組んでいます。例えば、複合機「bizhub 750/600」では、電磁力の力で熱を生み出すIH技術を画像を熱で定着させる定着ユニットに採用することで、大幅に消費エネルギーを低減させました。生産工程においては、「効率アップ」を合言葉に、エネルギー供給側では少ない燃料で大きなエネルギーを、使用側では少ないエネルギーで多くの生産量を追求しています。現在、何も施策を打たなければ排出量が増大するところ、様々な対策を講じることによって、これを抑制しています。

使用済み製品のリサイクル

資源を有効に活用するため、使用済み製品の回収とリサイクルを進めています。現在、欧州20カ国と日本および北米で展開している、プリンタの使用済みトナーカートリッジの無料返却リサイクル制度を、ポーランド、ハンガリー、チェコ、スロヴァキアのEU4カ国に拡大します。

複合機では、使用済み外装カバーのプラスチック素材をリサイクルして、新しい複合機の外装カバーの原料に使用しています。リサイクル拠点に専用の粉碎機を設置し、あわせて異物除去のシステムを強化することで、質の高いプラスチック素材の回収リサイクルを可能にしています。

2005 パフォーマンス Performance



全世界のコニカミノルタグループ生産拠点における、CO₂総排出量のグラフです。



ドイツの環境ラベル「ブルーエンジェルマーク」を多くの製品で取得しています。複合機分野では圧倒的な取得機種数を誇り、常に市場をリードしています。



経済性も追求する「ゼロエミッション活動」

コニカミノルタの事業所では、排出物の再資源化を進め、埋め立て廃棄物を究極まで減らす「ゼロエミッション活動」を進めています。再資源化量を排出物総量で割った「再資源化率」は、現在、全世界の総量ベースで95%を維持しています。

特に重要と考えているのは内部リサイクルです。これは、生産工程から出る端材(たち落としなどの製品にならなかった部分)や溶剤などを、同じ工場内で繰り返し利用することで、地球資源のロス削減、廃棄物削減とコスト削減を同時に図ることができます。

有害化学物質の管理と情報公開

環境保全と労働安全衛生の観点から、化学物質の総合管理を行っています。製品や生産現場で、有害な化学物質が不用意に使われないよう、「安全性確認システム」ですべての化学物質についてチェックを行っています。また、止むを得ず生産現場で使用している有害化学物質については、使用量と大気放出量の削減を計画的に行っており、2005年度は、大気総放出量を2000年度に対して約75%削減しました。また製品では、欧州RoHS指令対象製品について対応をすべて完了しました。

コニカミノルタでは、有害化学物質による汚染やリスクを発見し次第、迅速な調査と対応を行うとともに、地域の住民と行政に報告しています。2005年には、酸化トリウム含有のガラス片が倉庫内に保管されていることを発見しましたが、その後の調査で地域の方々や従業員に対して安全上問題のないレベルであることを確認し、管理体制を徹底しました。また、これを直ちに文部科学省と住民に報告するとともに、ホームページでもお知らせしました。

土壌・地下水に関しては、積極的な調査の結果、日本の9カ所で汚染が判明していますが、これに対して専門チームを編成しその管理のもとで、浄化と定期観測による監視を続けるなど対策を進めています。それぞれの状況については、ホームページなどで情報を公開しています。

2005年度の詳しい環境取り組みは、コニカミノルタ環境ウェブサイトのウェブ版環境報告書に掲載しています。

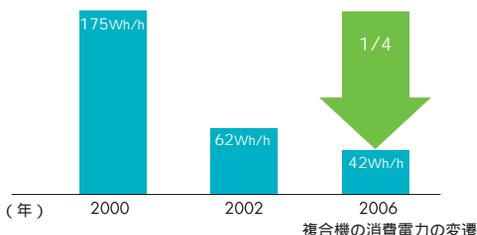
<http://konicaminolta.jp/pr/eco>

氷蓄熱式空調システム「エコアイス」(日本)

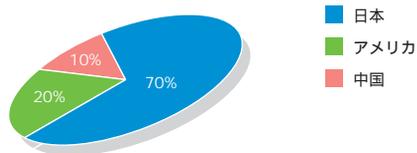
コニカミノルタが保護支援している鳥「タンチョウ」

溶剤回収装置(日本)

工場付近の湿地帯に集まる鳥「ゲース」(米国)



複合機では、トップクラスのエネルギー消費効率を実現しています。2006年発売の「bizhub 420」のエネルギー消費は、6年前の製品「Sitios 7045」の約4分の1です。



2005年度 VOC 放出量内訳

2005年度の生産事業所における、VOC(揮発性有機化合物)大気放出量の内訳です。ほとんどの割合を占める日本を、放出量削減の重点対策国としています。

環境方針に掲げた「測定なくしてコントロールなし」を実践するべく、あらゆる環境側面のデータをきめ細かに収集し、環境課題の抽出と改善を進めます。

5

各地域に合った社会貢献活動を グローバルな視点から

社会への貢献

私たちは、グローバルな視野を持ち、地域の文化や慣習を尊重し、積極的に社会に貢献します。

🔥 コミットメント COMMITMENT

コニカミノルタは、「企業市民」として社会と価値観を共有し、社会との共生を目指します。

企業活動を通して、地域の文化・歴史・慣習を尊重し、地域社会の抱える問題をとらえて考え、貢献します。

🔥 アプローチ APPROACH

企業市民として、社会から「信頼・共感」が得られる、社会貢献を行います。

活動範囲別プログラムの位置づけに基づき、「計画的」な社会貢献を行います。

コニカミノルタからの参加者も「感動・喜び・達成感」を実感できる、社会貢献を行います。



🎈 2006 TターゲットARGET

活動範囲によって3種類のプログラムに分け、
個々の活動を「選択・集中」して行います。

【グローバルプログラム】人類共通の課題に貢献する
テーマに、グループ全体で取り組みます。

【リージョナルプログラム】北米・欧州・アジア
(中国)・日本などの単位で、事業活動とも関連
するテーマに取り組みます。

【ローカルプログラム】世界各地のグループ会社・
事業所において、それぞれの地域社会との信頼
関係をさらに向上させます。



私たちコニカミノルタグループは、グローバルにイメージング事業を展開する企業として、広く社会から歓迎され、地域社会から共感をうる社会貢献を継続的に行います。

[コニカミノルタグループ社会貢献活動方針]より

グローバルプログラム

【大規模災害への対応】

昨今、大地震や異常気象などによる地球規模の大災害が増加しています。コニカミノルタは、2005年8月に大規模災害の定義や、意思決定の基準・手順を策定しました。同8月に米国南東部を襲った巨大ハリケーン「カトリーナ」、11月に発生したパキスタン大地震では、世界のグループ各社で被災募金や物品寄付の支援を、迅速で円滑に行うことができました。

Konica Minolta Medical Imaging U.S.A.,Incではハリケーン「カトリーナ」に際し、社員の発案で募金を集め、米国赤十字社より感謝状を授与されました。

【乳ガン撲滅とピンクリボン運動】

乳ガンによる悲劇をなくす運動に世界各地で協賛しています。米国、リトアニアでは、乳ガン撲滅運動への寄付やボランティア活動を行い、日本では乳ガンの早期発見の重要性を訴える「ピンクリボン活動」を支援しています。2005年は、日本での「ピンクリボンシンポジウム」の特別協賛も行いました。

リージョナルプログラム

【小学校の建築（中国）】

子供たちへの教育は、国・地域を問わず私たち大人の責務です。コニカミノルタ(中国)投資有限公司では、2006年3月に、希望工程活動（経済的な理由により就学困難な子供たちが学校に通うことができるよう支援する活動）に賛同し、遼寧省大連から140km北東にある小学校の建築費用を寄付しました。9月新学期からの新しい校舎での学習が楽しみです。今後は、他の地域にも活動を広げていく予定です。

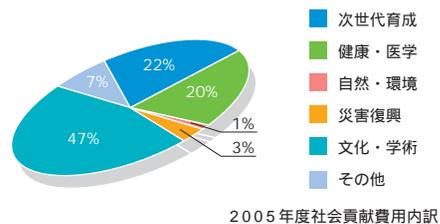
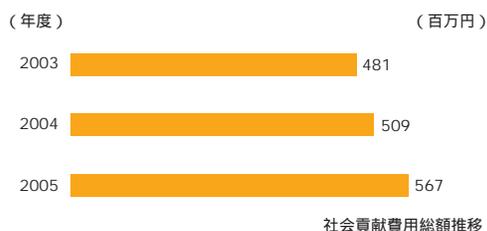
【次世代育成（日本）】

日本では少子化とともに、次世代の育成が社会的課題となっており、コニカミノルタでもこの課題に注力しています。

ランニング教室：全日本実業団駅伝で活躍しているコニカミノルタ陸上競技部は、子供たちを対象に、各地でランニング教室や体育の講義などを行っています。2005年は、北海道・東京・秋田などで9回実施しました。

出前プラネタリウム：コニカミノルタ製の移動式プラネタリウムを使って、各地のイベントで星空体験を提供しています。2005年度は約1万人の

2005 パフォーマンス Performance



社会貢献のグループ全体の調査で、コニカミノルタとして3回目の調査です。2005年度の実施プログラム数は、約700件に上りました。

2005年度社会貢献費用の内訳です。文化・学術の割合が最も高く、次いで次世代育成、健康・医学と続きます。



方々にご覧いただきました。

夢を形に！デザイナーってなあに：「自分の夢をあきらめないことが大切なんだと思います」「あらためて僕はデザインの仕事につきたいと思うようになりました。」これは、工業デザイナーの作品に触れ、自分の夢を形にデザインする、「夢を形に！デザイナーってなあに」プロジェクト（（社）日本インダストリアルデザイナー協会主催）に参加した子供たちの感想文の一部です。大阪でのワークショップに、コニカミノルタは初回から積極的に社員であるデザイナーを派遣しています。

ローカルプログラム

【青少年管弦楽団（中国・大連）】

コニカミノルタオプト（大連）有限公司は、大連市の「中山青少年管弦楽団」に対し、設立当初より、楽器寄贈や演奏会主催、社員ボランティアの演奏指導など、継続して支援を行っています。2005年12月には、コニカミノルタ主催で「第11回大連国際音楽クラブ演奏会」を行い、市民など約3,000人が参加しました。

【トリノ五輪で金・銅（ノルウェー）】

「コニカミノルタの皆さんに、ありがとうと伝えて

欲しい」。これは、トリノ五輪でスキージャンプの金・銅合わせて3つのメダルを獲得したラース・ビステル選手のコメントです。ビステル選手は、ノルウェーにあるKonica Minolta Business Solutions Norway ASの一員として働いています。同社は2005年5月よりスキージャンピング・ナショナル・チームのスポンサーとなり、代表選手2名を社員として雇用し、選手活動の支援を行ってきました。

【地域清掃活動（日本各地）】

日本の多くの事業所では、事業所周辺は地域コミュニティの大切な空間であるとして、社員参加の清掃活動を継続しています。コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社では全128事業所で実施しており、東京本社では最寄り駅までを30分間、約50名で毎月清掃しています。地域の方から「ご苦労さま」と声をかけられることもあります。

米国赤十字社より「カトリーナ」被災者募金の感謝状（米国）

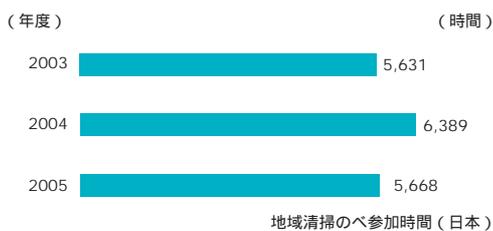
大連市「希望工程」納入式（中国）

「夢を形に！デザイナーってなあに」での作品制作（日本）

トリノ五輪メダリストのラース・ビステル選手（ノルウェー）



世界各地の事業所で、社員の献血が行われています。医療を支える献血事業は、継続的で重要な取り組みの1つです。グラフは、個人で行った献血は含みません。



日本の事業所における、地域清掃のべ参加時間です。2005年度参加のべ人数は、約1万人です。多くの事業所で、定期的な清掃作業を地道に継続しています。

これからますます広がっていく企業への期待に応えるため、コニカミノルタは、社会貢献活動により一層力を注いでいきます。



6

私たちの誇り、それは社員とその家族の笑顔

コミットメント COMMITMENT

コニカミノルタグループで働くすべての人々が、それぞれの職場において、はつらつと前向きに、変革を求めて能力を発揮できるような環境を整えていきます。

アプローチ APPROACH

誰もが公平にチャンスを与えられ、能力を発揮できるよう、人権・プライバシーを尊重し、性別や国籍などあらゆる差別を排除します。

価値観や個性等の多様性を尊重し、会社の競争力につなげていきます。

能力・成果による実力主義人事を推進し、「チャレンジャブルな人材集団」を目指します。

従業員の成長のために、様々な育成・教育プログラムを整えます。

全世界において、従業員の安全と衛生を確保します。

社員の尊重

私たちは、社員のゆとりと豊かさを実現し、安全で働きやすい環境を確保するとともに、社員の人格、個性を尊重します。



2006 ^{ターゲット}TARGET

1. 実力主義人事を徹底し、公正かつメリハリのあ
る評価を進めるとともに、能力発揮を高める
人材配置（ローテーション）を促進します。
2. 仕事と生活のバランスにおいて、安心して業務
に専念でき、十分に能力が発揮できるしくみの
利用を促進します。
3. 日本においては、急速な少子高齢化による労働
人口の減少に対応し、年齢にとられない優秀
な労働力の確保とさらなる活用を促すしくみを
実現させます。



コニカミノルタには、誰に対しても多くのチャンスがあります。それは、チャレンジ精神、意欲、責任感を持って自らがビジネスの立役者となり、事業を成功に導くチャンス、または、新たなビジネスを創出するチャンスです。

コニカミノルタを支える最大の財産は「人」

コニカミノルタの最大の財産であり、企業価値を増大させる最大の要因は「人」であるとの認識に基づき、人材の育成と活用を重視しています。人事理念に掲げる「過去の成功体験や慣習にとらわれず、お客様の視点にたち、みずからの価値を高め、常に変革し続ける人」、そして、目標達成に向けて努力を惜しまない人を私たちは尊重し、高く評価します。そういう人こそが、コニカミノルタグループを育て、発展させていく原動力になるからです。

夢を実現するため、社員一人ひとりの個性を尊重

コニカミノルタは、社員一人ひとりが主役として自分の夢を実現していくために、自分で目標を設定し、失敗を恐れることなく夢や目標に向かってがむしゃらにチャレンジすることを求めています。「熱い気持ちを育んで、壁を乗り越えるために自分を変える」、そうしたバイタリティあふれる社員であれば、性別や人種、年齢や職種を超えて、誰もがその社員を尊重します。人事制度においても、「社員の能力と仕事へのやりがい」を大きくし、常に成長し続ける人材を尊重し、

育成する」という考え方のもと、社員の能力・成果が公平に評価されて昇格や昇進に結びつくようになってきました。つまり、全員に自己表現のチャンスがある一方、社員としては「能力発揮と成果」が問われるという、公正・公平であって緊張感を持ったしくみです。

中国で広がる従業員の定着と能力発揮

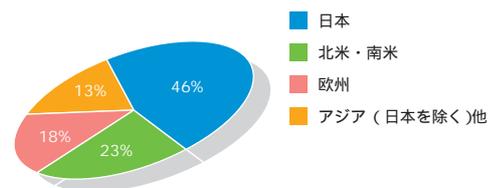
情報機器製品の大半は中国で生産されており、より良い職場環境づくりと従業員一人ひとりの能力向上が、従業員の定着と能力発揮に結びつくという考えのもと、各種の取り組みがそれぞれの生産拠点で始まっています。

中国の生産会社 Konica Minolta Business Technologies Manufacturing (HK) Ltd.では、現地従業員の登用促進、権限委譲など優秀なスタッフ層の育成をしています。長年提携関係にある広東省の石龍工場で働く約5,000名の従業員全員に対しても、2005年度は文化体育活動の充実、余暇時間（就業時間外）での教育活動、コンプライアンス教育の徹底、カウンセリング制度の導入、コミュニケーションの促進を図りました。

2005 パフォーマンス Performance



2006年3月末のグループ社員総数は、31,685人でした。数値は、それぞれ3月末のもので、2003年のみ統合後の9月末の値です。



グループ社員地域別雇用割合（2006年3月末）

2006年3月末現在のグループ社員地域別雇用状況です。国別では、日本、米国、中国、ドイツ、フランスの順に雇用者数が多いです。



また、新たに設立されたコニカミノルタビジネステクノロジーズ（無錫）有限公司での取り組みは、P.7～10の特集で前述したとおりです。

安全で快適な職場環境づくり

コニカミノルタでは、安全で快適な職場環境づくりに努め、グローバルな労働安全衛生管理に取り組んでいます。コニカミノルタとして世界共通の管理基準を設け、それに各事業所ごとの独自性を融合させたマネジメントシステムを構築中です。日本では、OHSAS18001^{*1}に基づく労働安全衛生管理体制の運営を目指して、グループ基準類と安全衛生内部監査の準備を進めています。中国、米国、欧州では、各事業会社を通じてすべての関係会社を統括するグローバル管理体制の構築に着手しました。各事業所における労働安全衛生活動のレベルを把握するため、コニカミノルタ独自の自己評価プログラムを開発し、評価を実施しました。その結果は、中期労働安全衛生計画に反映させています。

設備・作業の本質安全化

各国の工場での作業安全をより確実なものにするために、従来の労働安全衛生の手法から一歩進め

て考えています。様々な角度から、起こりうる事故を想定してリスク評価を行い、万が一危険な行動をしてしまった場合にも、事故を起こさない、ケガをしない設備対策や作業管理を予め実施しておく、本質安全化を目指したリスクアセスメントを実施しています。現在、日本において展開中ですが、グローバル労働安全衛生マネジメントの一環として、全世界に展開していきます。

また、大型設備・プラントでは安全装置の機能点検を行っています。2005年度日本では「引火・爆発」を点検の重点項目とし、対策の強化を行いました。

日本でのアスベスト（石綿）問題への対応

日本では2005年夏、アスベスト^{**2}が原因と考えられる健康への影響が社会問題となり、コニカミノルタでも、従業員の健康被害、取り扱い作業、設備、建築物への使用状況について過去に遡って詳細に調査しました。その結果、アスベストによる健康被害、アスベスト取り扱い作業は、現在および過去においてもないことを確認しました。また、社内の設備、建築物の一部については使用が確認されていますが、気中濃度測定の結果問題はなく、今後も可能な限り対策を講じます。

^{*1}OHSAS18001：労働安全衛生マネジメントシステムの規格。労働に関する規格として唯一、国際的に認められている。

^{**2}アスベスト：天然の繊維状鉱物。不燃・耐熱性に優れ、耐久性、耐摩耗性、絶縁性などの特性を有する。

 ドイツ：Konica Minolta Business Solutions Europe GmbH

 中国：コニカミノルタビジネステクノロジーズ（無錫）有限公司

 米国：Konica Minolta Business Solutions U.S.A., Inc.

 日本：コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社



グループ社員は、世界の約40カ国に設けられた拠点におり、開発・生産・販売・サービスなど、あらゆる分野で活躍しています。

コニカミノルタには、社員に「これがやりたい」「これはビジネスになる」というアイデアがあり、それを実現する情熱とバイタリティがあれば、思い切って任せる社風があります。

7

責任ある対処

行動憲章に反するような事態が発生したときには、予め定めたコンプライアンス手続きに則り、経営トップ自らが問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行います。

リスクマネジメント委員会

経営上の危機が発生した際に経営トップ自らが対応する体制は、従来の危機管理委員会が担っていましたが、これを発展させた形で、2005年10月にリスクマネジメント委員会が発足しました。新体制では、グループ各社が事業リスクを世界規模で適切に把握し、対策をきちんとコントロールしているかどうかを、トップが確認するしくみになっています。2005年度は、事業会社ごとにリスクの抽出と評価を実施しました。

監査委員会の実績

2005年度、監査委員会は、コニカミノルタグループの内部統制システムの現状評価を行った結果、「リスクマネジメント体制の構築」と「企業情報開示体制の構築」が当面の整備すべき分野であるとの意見具申を取締役会で行いました。取締役会において両体制の構築が決議され、リスクマネジメント委員会（左記）ならびに企業情報開示委員会（P.19）が新設されました。



内部情報提供者の保護

社員がコンプライアンス違反行為を発見した場合、安心して情報提供ができるしくみを整えています。日本ではヘルプラインを設け、電話・電子メール・手紙などで、各社のコンプライアンス委員会はもとより、経営トップやコンプライアンス担当役員に直接連絡や相談をすることもできます。2005年度の通報は10数件で、通報内容は、通報者に不利益を与えないよう配慮しながら調査等を実施し、すみやかな改善指示を行いました。

商品での「責任ある対処」

メーカーとして、商品の安全性に関する情報には、特に注意を払う必要があります。コニカミノルタでは、世界中のどこで商品に関する事故が発生しても、その情報は必ず24時間以内に「緊急事故情報データベース」に入力されます。そして、情報のなかで特に重大なものは、直ちに品質管理部門から経営トップを含めた経営層へ報告され、「責任ある対処」としてトップ自らが速やかに問題解決にあたることができるしくみが構築されています。

コニカミノルタへの声

以前に、コニカミノルタにかかわりを持っていただいた方々に、コニカミノルタに対するご意見、ご感想をお寄せいただきました。



国連大学 副学長
東京大学名誉教授
安井 至 氏

私は、化学物質が環境に与える影響に関して研究しています。そうした観点から、日本企業の環境対応には非常に注目していました。

そのような折、コニカミノルタさんが自社の環境活動を地域の人々に理解していただく独自の方法として地域環境報告会を開始され、第1回の地域環境報告会が開かれたとき、私は基調講演をさせていただき、実際に地域環境報告会も後方から拝見しました。この報告会は、その後毎年続いており、私は第3回にも参加しています。

化学物質を多く扱うメーカーとして、地域に対してこのようリスクコミュニケーション活動を実施したのは、私が知っている限り御社が最初で、その意義は極めて高いと評価しています。特に、



ジクロロメタンを大量に使用している事業所で、このような試みを実施したことは高く評価されると思います。この実績で地域住民の方との信頼は大きく深まったと考えられますが、次の段階のコミュニケーションをどう発展させていくのか、化学物質の対話でエクスプローラーとなり得た「志」を今後どのようにつなげていくのかに期待したいと思います。

御社は今後、グローバルにCSR活動を展開していくとのことですが、これまで培ってきた地域に向けたCSR活動の基本の上に、グローバル展開をしていただきたい。それは、「地域社会の人々にどう貢献するのか」「社員に対してどのような対応をしているのか」、最終的には「地球環境に対して企業はどのような責任を持つか」を具体化するのがCSR活動だと考えるからです。

CSRを有効な経営のツールとして企業活動を展開していくことは大変なことだと思いますが、今後も、より広い視野から高い目標に挑戦して欲しいと思います。



大和総研 経営戦略研究所
主任研究員
河口 真理子 氏

10年前、当時まだアナリストとして、コニカさんも、ミノルタさんも担当していた私の印象は偶然にも、両社に対してまったく同じものでした。それは、「まじめで、誠実」。お会いする社員の皆さんはいつも穏やかで「働きやすそうな職場」と感じました。しかし、正直・誠実ということは、巧く立ち回ることができないということで、アピール力という点では、何か物足りなさを感じます。たとえば、技術的に良い製品を持っているわけですから、「ここがこんなに優れている」ということを、もっと強烈にアピールすべきではないでしょうか。これはCSRにおいても言えることです。御社は

「グローバルに通用するCSRを経営に取り入れる」と掲げていらっしゃると思いますが、御社のどこを見てほしいのか、もっと「強く」CSRレポートの中で語ることが必要だと思います。

一方、このCSRレポートでは章立てを行動憲章の順番にしていることや、中国での工場建設など興味深い話を中心に構成していることに、創意工夫の跡が感じられます。特に、トピックとして中国での生産拠点の立ち上げを取り上げたことは、グローバル戦略の好事例と評価できます。この話の中で印象的だったのは、後段にある「人」を重要な財産と考え、従業員の90%を地元採用し、地

域の雇用創出に寄与した点や、労働組合が早期に設立されたことなどです。ただし、ここが御社のアピール力が物足りない点なのですが、工場の早期立ち上げの話よりも、現地の従業員や労働組合をメインにされたほうが、御社のCSR的意味づけがはっきりするのではないのでしょうか。

外部の視線で社内を見渡し、積極的にアピールする点はアピールしつつ、また問題視されるネガティブな情報も社風どおり誠実に開示するという情報発信を心がけると、御社のファンづくりにもっと役立つと思います。



【遠藤氏】

私はマンモグラフィ（乳房撮影）を使用した乳ガンの診断に長年携わってきました。医師がマンモグラムから情報を的確に読み取るためには、画像の濃度階調が極めて重要です。約8年前、教育活動用マンモグラムの複写法を模索していた私たちに、当時販売されていたフィルムの性能を大幅に上回る濃度を実現したデジタル複写法を提案していただきました。その後、たびたび行ったフィルムの複写作業にあたり、徹夜業務にもご協力いた



【森田氏】

米国、欧州ではマンモグラフィによる乳ガンの検診率が80%を超えていますが、日本ではまだ数%にとどまっています。社会習慣や女性自身の検診の必要性に対する認識の低さなどいろいろな理由が考えられます。コニカミノルタさんには、私たちが取り組んでいる乳ガンの早期発見・診断・治

だきましたが、それはマンモグラフィによる乳ガン検診が将来果たすであろう「乳ガンの早期発見」がもつ社会的意義を受け止めてくださったものと、心から感謝しております。

その後、研究所を挙げて画期的なデジタルマンモグラフィの開発や、さらに高濃度フィルムの開発に取り組み、それを実現されてきました。それは会社全体が、乳ガンの早期発見のために「自分たちは何をすればよいのか」を追求した結果である、と思います。

メーカーは、ともすれば新製品を売りたいがために便利さばかりを強調し、本質を見失うことがありがちです。御社はイメージング技術に取り組まれている企業ですから、今後も人々の命を助けようとする私たち医療関係者が「いま、何を見ているか」「次に何を見たいか」を理解し、これを援助してくださる企業であり続けることを要望いたします。

療を進める「ピンクリボン運動」を支援していただいております。

さらに、御社の女性社員の方に向けて、マンモグラフィの検診について啓蒙活動を行い、もっと積極的に受診する環境づくりを進めていただければと思います。そうした環境や意識が広がれば、日本全体の検診率も上がっていくと思います。



国立病院機構 名古屋医療センター
放射線科部長
NPO法人 マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 教育・研修委員会委員長
遠藤 登喜子 氏

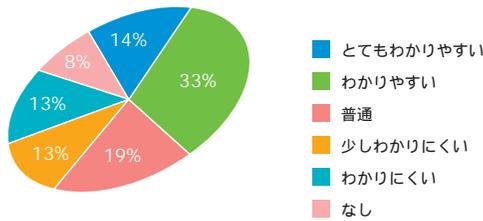


中日新聞社健康保険組合
中日病院 乳腺科 医師
森田 孝子 氏

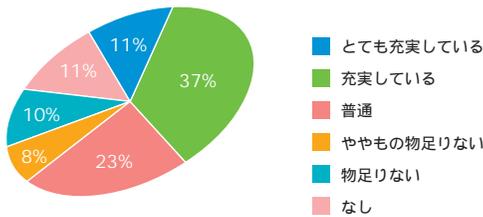
個人株主様からのコニカミノルタへの声

「コニカミノルタ CSR レポート 2005」に対して寄せられた、日本の個人株主様からのアンケート回答 104 通の集計結果です。

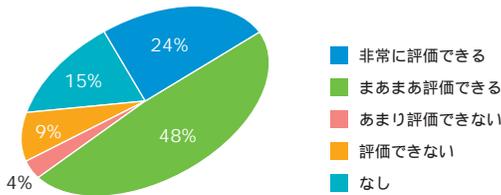
この報告書のわかりやすさについて



内容について、どうお感じになりましたか？



コニカミノルタの CSR 活動について



好意的コメント

期待している人への声援にこたえるものでとても好ましい。
このレポートのような類の企業活動...非常に有効な活動とあってよい。
各国に広く貢献活動されていることに感激しました。何万人という株主に送付するので、貴社の方法*に感心。地球環境上封筒はいりません。これでよいのです。

*方法：株主様に CSR レポートをお送りする際、封筒には入れず、冊子の表紙に直接宛名シールを貼り、開かないよう右側をテープでとめた「エコメール」にしました。

社会貢献には関心がある。企業を見る目がかかる。感謝。
環境配慮にこれだけ取り組んでこられたということはすばらしい。
非常に充実し行き届いた経営とお見受けいたしますので安心。
新しい刺激をいただいた気持ち。

改善へのコメント

外来語・カタカナ英語が多すぎる。
表現が硬い。字が小さい。
物語やイラストなど楽しく読める工夫がほしい。
他社と同じような内容で貴社の特色が出ていない。
本アンケートの回答返送費用を負担させるのは非常識。
返信用封筒がないのは失礼。
監督官庁を意識した内容であり、読者を考慮した制作でない。

その他

ステークホルダー重視するというなら、業績見通しに少しは触れても良いのでは？
この CSR でどれだけ業績が UP するのか？

編集後記

より多くのステークホルダーの皆様にご覧いただき、2005年に初めて、個人株主様に「CSRレポート2005」ダイジェスト版を送付しました。多くの方々に良い印象を持っていただいた一方、改善へのコメントもありました。いただいたご意見により、「CSRレポート2006」では、コニカミノルタのCSRをより読みやすく、わかりやすくご理解いただくために、3点をポイントとして制作しました。詳細な活動・データなどはホームページで報告し、この冊子では、コニカミノルタのCSRの基本はグループ行動憲章の実践にあることから行動憲章に沿って、コミットメントなどの考え方や計画と、写真・グラフ・図を使って活動実績を簡潔に報告しています。次には、多くのステークホルダーの方々の協力があった短期間でレベルの高い立ち上げとなった、中国の新たな生産関係会社、コニカミノルタビジネステクノロジー（無錫）有限公司の1号機出荷までの活動を、コニカミノルタらしい特集記事として編集しました。さらには、平易な表現を心がけるとともに専門用語には注釈をつけました。まだまだ不十分と感じられるかと存じますが、今後とも、いただくご意見によって“親しみやすく、読みやすく、わかりやすい”紙面づくりを目指して、編集してまいります。

コニカミノルタ CSR レポート編集委員会

コニカミノルタ グループ

Group Formation

持株会社

コニカミノルタグループの経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査・管理などを担い、グループ全体を統括しています。

コニカミノルタ ホールディングス株式会社

事業会社

すべての事業を個別に分社化し、業務執行に必要な権限を各事業会社に委譲することで、柔軟でスピーディな業務執行・事業推進が可能な体制を構築しています。

コニカミノルタ ビジネステクノロジーズ株式会社

複写機・複合機・プリンタ・ファクシミリ・マイクロ機器等の情報機器および関連消耗品等の製造、販売ならびに関連サービスの提供

コニカミノルタ オプト株式会社

光学製品（光ピックアップレンズ、マイクロカメラユニット等）や関連機器および電子材料（TAC フィルム等）の製造、販売

コニカミノルタ フォトイメージング株式会社

一般用および業務用写真、感光材料、インクジェットメディア等の製造、販売

コニカミノルタ エムジー株式会社

医療・印刷用フィルム、処理機器等の製造、販売ならびに関連サービスの提供

コニカミノルタ センシング株式会社

産業用・写真用・医用計測機器等の製造、販売

共通機能会社

技術開発機能、共通サービス機能といったグループ横断的な機能を2つの共通機能会社に集約することで、より効率的な事業推進を可能にしています。

コニカミノルタ テクノロジーセンター株式会社

コニカミノルタ ビジネスエキスパート株式会社

Group Profile

会社名 コニカミノルタ ホールディングス株式会社
(KONICA MINOLTA HOLDINGS, INC.)

本社 東京都千代田区丸の内 1-6-1 丸の内センタービルディング
関西支社 大阪府大阪市西区西本町 2-3-10 西本町インテス

代表者 代表執行役社長 太田 義勝

設立 1936年(昭和11年)12月22日
(2003年8月5日経営統合)

資本金 37,519百万円

決算期 3月31日

従業員数 90人(グループ従業員 31,685人)(2006年3月末現在)

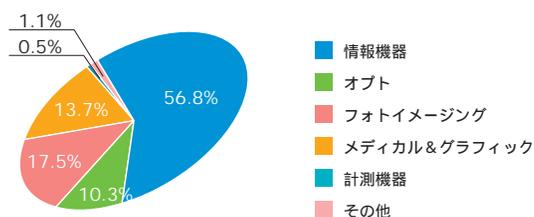
売上高(百万円)



*旧ミノルタ中間実績含む

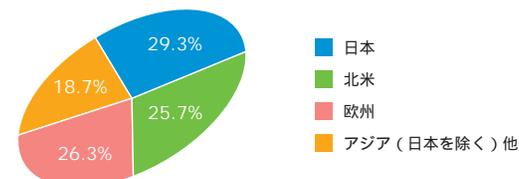
事業セグメント別売上高構成

2005年度



地域別売上高構成

2005年度



発行者: コニカミノルタ ホールディングス株式会社 広報宣伝部
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-6-1
TEL 03-6250-2100 FAX 03-3218-1368
<http://konicaminolta.jp>

お問い合わせ先: コニカミノルタ ビジネスエキスパート株式会社 CSR推進部
〒191-8511 東京都日野市さくら町 1
TEL 042-589-8166 FAX 042-589-8071
E-mail: csr-support@konicaminolta.jp



KONICA MINOLTA

- コニカミノルタ ホールディングス株式会社
- コニカミノルタ ビジネステクノロジー株式会社
- コニカミノルタ オプト株式会社
- コニカミノルタ フォトイメージング株式会社
- コニカミノルタ エムジー株式会社
- コニカミノルタ センシング株式会社
- コニカミノルタ テクノロジーセンター株式会社
- コニカミノルタ ビジネスエキスパート株式会社

